

隼人(はやひと)の瀬戸の巖(いわほ)も 年魚(あゆ)走る 吉野の滝に なほ及(し)かずけり

巻6-960 大伴 旅人
(隼人の瀬戸へ来てみると白波が大岩に
碎け散り実に勇壮な風景だ。でも鮎が身
を躍らせて走っている吉野の滝の爽やか
さのほうがもっと素晴らしいよ)



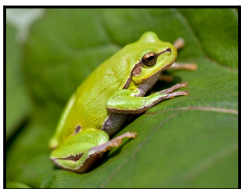
後悔しない判断力、選択能力、決断力を！

6月に入り、あちこちで田植えが見られる頃となりました。また、役場の周辺で作られている小麦も黄金色に色づき、まさに麦秋の時期になりました。

学校・園では1学期が始まって2か月が過ぎ、後半となりました。新入園児や新入生もようやく、園や学校にも慣れ、遊びを通じた保育や教科の学習にも、友達と協力しながら意欲をもって取り組んでいるようです。学校・園では、夏に向かって行くこの時期、熱中症には十分に気をつけてほしいと思います。特に、天気予報における長期予報では、今年の夏は例年よりかなり暑くなると言われていますので、皆様にも、熱中症対策に十分ご配慮いただければと思います。

ところで、この時期、田んぼに水が入ると至るところから、ツチガエルなどのカエルの鳴き声が聞こえてきます。

また、これからの梅雨の季節、木の葉っぱの上や田んぼの畦からは、アマガエルのクワックワックワッ...という鳴き声が聞かれます。



「青蛙 おのれもペンキ ぬりたてか」(芥川龍之介)

「恐る恐る芭蕉に乗って雨蛙」(夏目漱石)など、有名な小説家がカエルを俳句に詠んでいるのは興味深いことです。指先に乗るアマガエルはとてもかわいいものですが、カエルはすべて肉食で、海外にいる巨大なカエルの中ではヘビを飲んでしまうものもいます。ニホンアマガエルは害虫を食べてくれるので、田んぼには欠かせない有益な両生類です。

ある日のこと、仲間が出かけている間に、緑色のカエルはひとりで池のふちに座り込んで、どちらに跳ぼうかと思案していた。すぐ右手には、ふわりとしたスイレンの葉があり、左手には気持のよさそうな丸太があって...

どちらも魅力的に思えた。まず、こっちに跳ぼうと決める。すると、次には別の方がよくなる。そしてまた、気が変わるという具合で何時間も過ぎていった。太陽が沈み、月が昇った。それでもカエルはまだ、どちらにも跳んでいなかった。

次の朝、戻ってきた仲間が、出かけた時とそっくり同じ場所にいるカエルを見つけたが、カエルは息を引き取って灰色だった。カエルは石に変わっていたから...

この話は「ラマー愛と魂への旅」[ダレル T.ヘア (著)、灰谷 健次郎 (翻訳)]という本に載っていた話です。

どんな人でも、どんな人生でも、毎日小さな分かれ道(選択すべき事柄)があります。「今日は何を食べよう」、「どんな服を着よう」、「この人にどんな言葉をかけよう」など、私たちは1日のうちにたくさんの決断をしていて、ケンブリッジ大学バーバラ・サハキアン教授の研究によると、人は1日に最大3万5,000回の決断をしているそうです。

情報を整理・比較・検討し、ようやく決断に行きつきます。この処



理が1日に3万5,000回も脳内で行われているのであれば、脳の力が消耗するのは当たり前です。身体を動かし続けていると疲労するのと同じように、決断を続けていると脳が疲労し、徐々に決断の質が低下していきます。この現象が「決断疲れ」と言われています。この決断疲れがあるにしても、私たちは日々、物理的なモノだけでなく、人間関係や自分の進路など、目に見えない事柄についても可能性や選択肢から何かを選ぶという決断を下しているようです。

とにかく、人は生きていく上で、重大な決断をしなければならないときは必ず訪れます。それは自分で選ばなければならないのです。そして、自分で決めるからこそ意義があります。

石のカエルにならないためにも、後悔しない判断力、選択能力、決断力を磨いて、よりよい人生を創ってほしいものです。カエルは冬眠します。土の中で冬を越して、春が来たときに姿を表します。それで春の季語とも夏の季語とも言われます。特に青蛙(アマガエル)はちょうど梅雨の季節が季語になります。

梅雨時は、子どもたちにとって、外での活動も制限され、体力をもてあましたり、イライラしたりして学校・園内でも事故やケガも増えたりします。健康に留意することはもちろんですが、私自身も含めて、雨の日には、雨の日の風情を愉しむ心のゆとりがほしいものです。



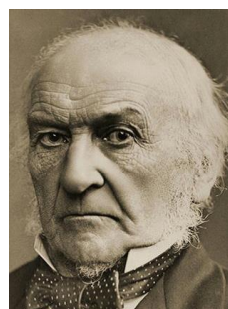
今月の一言

大きな過ちを多く犯さないうちは、
どんな人間でも偉人や善人にはなれない。

ウィリアム・グラッドストン

イギリスの政治家で、ヴィクトリア朝中期から後期にかけて自由党を指導して4度にわたり首相を務めました。

人はどんなことにもチャレンジし、いくつもの大きな失敗を積み重ねることで人の気持ちや人をいたわる心が芽生えたとともにその痛みが分かります。そのことが偉人となったり善人と呼ばれるようになったりするとグラッドストンは言っています。



教育委員会の取組

学校訪問・園訪問を行いました！

5月20日(月)から6月4日(火)にかけて、春期学校訪問(小中7校)・園訪問(幼稚園3園、北かぐやこども園)を実施しました。この目的は、年度始めの校長先生、園長先生の学校・園の経営方針を聴くこと(当面する課題、先生方への指導、働き方改革、地域とのつながり等)、先生方の授業の様子を見ること、そして、指導要録などの諸帳簿の点検等でした。訪問には、教育委員をはじめ、部長、次長、課長、主幹、指導主事が参加し、特に学校訪問には県教委から管理主事も来ていただきました。

どの学校、どの園の子どもたちも訪問したときには、元気よく「おはようございます」「こんにちは」と明るく笑顔であいさつしてくれて、心が洗われるような清々しさを感じました。



小中学校の授業参観では、主に若手の先生方や今年度、広陵町の転勤された先生方の授業を中心に見せていただきました。私の授業を見るポイントは、①授業における「めあてや目標」が提示されているか、②そのめあてが学習内容に合致しているか、③子どもたちの主体的、対話的な学びになっているか、④教師主導型の授業になっていないか、⑤クロムブック等、ICTを活用した授業となっているか、⑥学習環境が整備されているか、⑦学習規律は子どもたちに浸透しているか等、2、3分の授業を参観する中でそれらのポイントを確認しました。

①のめあての提示については、小学校ではほとんどの先生方が黒板等に提示されていましたが、中学校では約6割程度でした。②では、めあてと学習内容はほぼ合致していましたが、一部そうでない授業もありました。私がいつもめあての大切さを言っているのは、子どもたちが今日の授業で、何を学習するのか、その授業のねらい・目的が子どもたちに理解されること、そして、子どもたちが1時限の授業の見通しをもって、意欲的に参加することが大切だと言っています。

また、④の教師が子どもたちの前で、講義のようにひたすら話す教師主導型から脱却し、③の子どもたちが主体となって、自らが学ぶ中で、思考力・判断力・表現力を培うこと、教師が発問した問いに、子どもたち同士が会話する中で思考を深めていくことなど、授業の要素として入っていることが重要だとも言っています。さらには、⑤のGIGAスクール構想の一人1台端末のクロムブックを活用した個別最適化学びを進めていくために1日最低2時限ぐらいは活用してほしいと言っています。

最後に、⑥の子どもたちが日々、気持ちよく授業に参加するための教室の環境整備の重要性、⑦の授業に集中できるための学習規律の醸成や学校における規則・決まりを守ることは、子どもたちにとって将来を生き抜くとても大切な力だとも言っています。

以上のポイントで授業を参観させていただきましたが、ほとんどの先生方は、明るく元気な表情で子どもたちに接し、楽しくわ

かる授業を展開していました。

授業後は、校長先生の学校経営のポイントや授業参観を通して感じたことなど、参加したすべての方々から感想や気付いた点、ここを改善すればもっと良い授業になるなどの評価をいただきました。

幼稚園では、3歳児から5歳児の子どもたちの保育を参観しましたが、本当に無邪気でかわいく、園庭では、友だちと好きな遊びを見つけて楽しんだり、異年齢の子どもたちとのボディペインティングを楽しんだりしていました。



訪問した幼稚園では、以前に比べて園児数が減少しており、東幼22人、真美第一幼31人、真美第二幼29人で、一桁のクラスも4クラスとなっています。クラスの人数が少ない分、一人一人に対して、きめ細やかな保育をしてもらっています。北かぐやこども園は、幼保一体のこども園のため、0歳児から5歳児合わせて202人と大所帯となっていますが、先生方も多く、子どもたち同士が仲良く元気いっぱい遊んでいる姿は本当に微笑ましく感じました。それぞれの園長先生から、園の経営案や教育目標などを聴かせてもらう中で、特色ある保育・教育をしてもらっていることに感謝の言葉を述べさせていただきました。特に、昨年から進めている架け橋推進委員会(幼保の5歳児と小学校1年の6歳児の2年間を架け橋期と定めて、幼保小のスムーズなつながりを検討する会)についての取組状況とその思いについても聴かせていただきました。

学校訪問・園訪問を終えて、何よりも子どもたちの屈託のない笑顔と元気で明るい表情を目の当たりにして、子どもたちや先生方のためにでき得ることは何でもしたいという想いととも、いつも町教委の職員に言っている「教育委員会は、学校・園の応援団」を改めて感じた訪問でした。

交通安全こども自転車全国大会に出場

6月6日(木)、第56回交通安全こども自転車全国大会に出場する広陵北小学校5年生4人と吉田校長先生、保護者の方が町役場に報告に来られました。

奈良県交通安全協会や奈良県警察が主催する第46回交通安全こども自転車奈良県大会が5月11日(土)に開催され、北小学校5年生の4人が、みごと優勝されました。



この大会は自転車競技を通じて、小学生に自転車の安全な乗り方に関する知識と技能を身に付けてもらうことを目的とされています。

はじめに、吉田校長先生からこの大会の出場に至った経緯と大会の様子を聴かせていただきました。本来であれば、6年生に出てもらうところ、誰も手を挙げてくれず、5年生に話したところ、スポ少でテニスをしている仲良し4人が手を挙げてくれたこと、そして放課後しっかりと練習を重ね、大会では2位とわずかな差で優勝したことの報告を受けました。次に出場する一人一人から、全国大会に向けての抱負を、町長と香芝署長、私からは全国大会出場のお祝いの言葉と激励のエールを贈りました。

全国大会は、8月7日(水)に東京ビッグサイトで開催されます。奈良県の代表として、精一杯持てる力を発揮して、全国大会でも優勝を勝ち取ってほしいと思います。